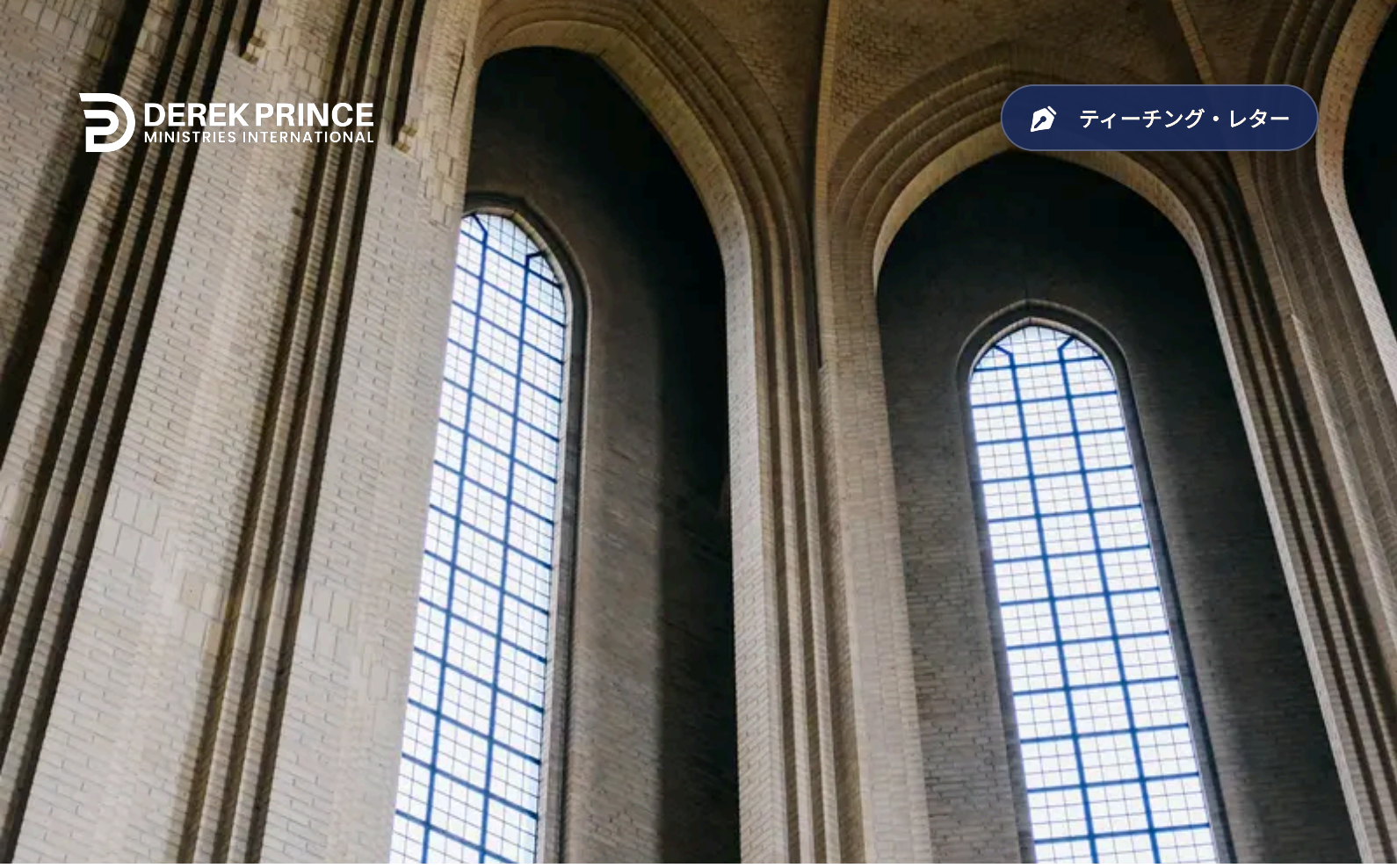




しっかりと結び合わされる

ティーチング・レター
著者 デレク・プリンス

イエスは、ご自身と父が一つであるように、私たちが一つとなるようにと祈られました。父がイエスを遣わしたことを、この世が信じるためです。最近、神は、私たちが効果的、かつ具体的に、遠い将来ではなく、私たちの世代において一つとなる方法のために、私の目を開かれ始めました。私は今、それが可能であると信じます。実際、神はそのことのために聖霊を通して働いておられると信じます。

では、詩篇から「一致への道」へのいくつかの基本的な聖書的、具体的な考え方を見ていきましょう。

> *「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう。それは頭の上にそそがれたとうとい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流れてその衣のえりにまで流れしたたる。それはまたシオンの山々におりるヘルモンの露にも似ている。主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。」*(詩篇 133:1-3)

「住む」という単語は、同じ家の中にたくさんの人やいくつかの家族が住むという共同生活を指しているのではありません。私が言っているのは、キリストにある兄弟姉妹がずっと継続していっしょに生活を共有するということです。これこそが神の目的であり、神が見たいと願っておられることなのです。

このみことばは、しあわせ、楽しさと言っていますが、それが困難なことだとは言っていません。私たちは日曜日に教会へ行き、賛美とメッセージ、温かくふんわりした雰囲気、「神さまの祝福があるように。また来週」と言い合っています。それは簡単なことですし、労力もいりません。しかし、それは私たちが目指すところには、ほど遠いのです。神は、一致をもっていっしょに住む兄弟たちについて言っているのです。

詩篇 133 篇の他の 2 節は、私たちが従うときの結果について描写しています。「とうとい油のようだ」油注ぎの油が祭司アロンの頭に注がれます。それは常に下へと流れ、決して上に向かいません。これはまた、一致にも当てはまります。一致は下からではなく、上から来るのです。

何年もの間、私はカンファレンスを開くことで、神の民を一致させようとしてきました。ほとんどの場合、それらのカンファレンスには2つの共通点がありました。75%が女性で、またほとんどが一般信徒で、教会のリーダーたちはわずかでした。こ

© 2009 - デレク・プリンス・ミニストリーズ・インターナショナル・インク

のことにより2つのことが起こりました。妻は夫より霊的になり、また、羊が羊飼いより霊的になるということです。ある意味、私たちは問題を解決したのではなく、増やしてしまったのです。

私は、羊たちの一致について語ることはむなしいと気づきました。羊たちが一致していないのではなく、一致していない人々は羊飼いたちなのです。

一致は権威に付随してくるものです。もし両親が一致しているなら、家庭の中には一致があり、両親は権威を持っていることになります。しかし、両親が不仲であるということは、例えば、母親が「テレビを見たらだめ」と子どもに言うと、子どもは、「でもお父さんは見てもいいと言ったよ」と答えるとか、あるいは、「お父さんは教会に行かないのに、どうして僕は行かなくちゃいけないの」というふうになり、一致も調和も権威もありません。多くの場合、それはまた、キリストのからだにも当てはまります。リーダーたちに一致がないなら、からだにも一致や権威はあり得ないのであって、教会員たちは、自分の支持するリーダーとだけ行動します。

詩篇 133 篇の 3 節に進むと、一致が露にたとえられているのがわかります。聖霊についての多くの描写が聖書にあります。多くは劇的な火や風、雨のようなものです。しかし、露は違っています。目につきにくいもので、無音で静かではありますが、とてもさわやかな気分にさせるものです。神がご自身の民を一致させられるとき、その環境は、聖霊の劇的な現れによるのではないものを創られるでしょう。静かで柔らかく、穏やかでありながら、神の民は非常に気分がさわやかになるでしょう。

133 篇の最後は、「主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである」です。私たちは祝福を目指して励むことがほとんどで、そのために祈り、断食します。また、私たちはそうすべきです。しかし、主が祝福を命じられた場所にいるということは、なんと素晴らしいことでしょう。その場所とは、神の民が一致している場所、兄弟姉妹が一致をもっていっしょに住んでいるところです。

そこにたどり着くには、私たちは多くの失望と犠牲を味わうでしょう。それは私たちの偏見をあきらめること、高慢を抑えること、そして他人のために自分のいのちを犠牲にすることが要求されるでしょう。しかし、もし向かっている目標のビジョンを私たちがとらえるなら、私たちは喜んで犠牲を払うでしょう。

主の家

二番目の箇所は、詩篇 122 篇です。

> *「人々が私に、「さあ、主の家に行こう」と言ったとき、私は喜んだ。エルサレムよ。私たちの足は、おまえの門のうちに立っている。エルサレム、それは、よくまとめられた町として建てられている。そこに、多くの部族、主の部族が、上って来る。イスラエルのあかしとして、主の御名に感謝するために。そこには、さばきの座、ダビデの家の王座があったからだ。エルサレムの平和のために祈れ。「おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。」私の兄弟、私の友人のために、さあ、私は言おう。「おまえのうちに平和があるように。」私たちの神、主の家のために、私は、おまえの繁栄を求めよう。」*

この詩篇の始めと最後が主の家にフォーカスされていることに注目してください。エルサレム、シオン、イスラエルに与えられている約束は、実際にエルサレム、シオン、イスラエルに与えられると私は考えています。神がイスラエルの地やユダヤ人、またエルサレムの町への約束を取り消されたことは一つもありません。しかし同時に、この聖句は、神の新しい契約の民であるイエス・キリストの教会にも適用できます。

それが正しいということを新約聖書から一つの聖句を挙げて証明し、これらのことばを今日のイエス・キリストの教会にいる私たちに適用してみましょう。パウロはこう記しています。

> *「それは、たとい私がおそくなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。」*(Iテモテ 3:15)

使徒としてのパウロの権威と、新約聖書が言っていることに基づいて、「神の家」は、「生ける神の教会」であると言うことができます。そのことを念頭に置いて、詩篇 122 篇に戻ってみましょう。

> *「人々が私に、「さあ、主の家に行こう」と言ったとき、私は喜んだ。エルサレムよ。私たちの足は、おまえの門のうちに立っている。」*

別の言い方をすれば、私たちは神の民が神の教会として集う場所へ行く、ということです。

古い契約のもとでイスラエルが自分たちの土地に住んでいるとき、神は、すべてのイスラエル人の男子は家を離れて年に3度エルサレムに旅することが要求されました。それは必須でした。詩篇 122 篇はイスラエル人の男子の旅について言っている詩篇の一つです。

「エルサレム、それは、よくまとめられた町として建てられている」(3節)。よくまとめられた、という意味は、様々の部分が集められて非常に強く一致しているということです。これこそ、神が求めておられることです。様々なグループが集められ、まとめられ、しっかり結び合わされ、ゆるがされることも、だれかが他の人からゆるまされることもできません。

エペソ 4:15-16で、キリストはかしらであり、教会はキリストのからだであると述べている美しい並立の表現があります。

> *キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。*(16 節)

私がこの箇所で好きなのは、結び合わされ、ということばです。重ねて言いますが、様々な機能と力量を持った多くの教会員ということです。みなが一つとなり、力強く効果的な方法でともに集められ、組み合わされ、一致しています。もう一度言いますが、これこそ、私たちの時代における神の目的なのです。一つのからだを機能させるために、様々な教会員たちがよくまとめられ、かしらにあって一致することです。

部族が上って来る

詩篇 122篇 4節に戻りましょう。

> *「そこに、多くの部族、主の部族が、上って来る。イスラエルのあかしとして、主の御名に感謝するために。」*

これは、神の民が集まる場所としてのエルサレムのことを言っています。かつて神は、私にこう語りました。*「私の民のすべてが一つ所に集まって来て、私に感謝をささげること、それがあかしである。それは周りの国々へ私をあらわすことだ。私の民のすべてが自分の家を離れ、私が示した一つの場所へ集まって来て、私の名に感謝をささげる光景、それがイスラエルのあかしである。それこそ、イスラエルが一つの国として、主こそ神であることを証明することである。」*

イスラエル人は、個別にではなく、各部族がその部族指導者のもとで、集団で部族として上って行くというところに注目してください。私は、これが神の民の効果的な一致の真の鍵だと信じます。私たちは個人個人で一致されるのではなく、部族として一致されるのです。私たちのリーダーがいっしょに上っていくなら、バプテスト部族、ルーテル部族、メノナイト部族、単立部族などの各部族はそのあとについて行くでしょう。

神の最終的な行動は、個々人ではなく、からだへの働きだと信じます。エゼキエル 37章の谷間の干からびた骨の幻からそう考えるのです。その幻には、預言者エゼキエルの2つの行動を通して、2つの神の力が働いています。第一に、エゼキエルは骨に預言し、第二に、息(風あるいは霊)に預言します。

骨に預言することは、メッセージ(説教)です。息への預言は、とりなしです。エゼキエルが骨に預言した時、神は超自然的に骨に働いて、完全なからだにつながり合わされました。しかし、エゼキエルが息(風あるいは霊)に語った時、神は個々の骨に働かれたのではなく、完全となったからだだけに働かれたのです。それらの非常に大きな集団である完全なからだたちは、自分の足で立ち上がりました。

非常に大きな集団、それこそが神の目的です。もし、あなたがあなただけの一本だけの骨であるなら、あなたはからだである場所を見つけていません。やがて神が働く時が来ますが、それがいつなのかをあなたは知ることができません。なぜなら、神は最終的に骨にではなく、からだに働かれるからです。

詩篇 122篇に戻って、別の方法で同じ真理が述べられています。イスラエルは、個人的にではなく、指導者のもとで各部族が部族の一員として主を礼拝するためにエルサレムに上って行きます。神は実にそのために働いておられるのです。

統治とさばきの場

詩篇 122篇の5節に、*「そこには、さばきの座、ダビデの家の王座があったからだ。」*とあります。この説では2つのことを言っています。統治とさばきです。神の民が神の権威を再び行使するようになることを語っています。

私たちは、今は神に任命された世界の仲介者で、聖書は、将来私たちは御使いたちをさばくようになると言っています。しかし、不一致で分裂した教会が、統治やさばきの権威を神からゆだねられるとは信じません。神は言われます。「あなたがたが権威のもとで一致するその時、あなたがたはさばきと統治の場である王座を見出す。」神は、シオンから伸ばされる祈りの杖で国々を治めるために、神の民が世界に主権を行使するのを見たいと願っておられますが、私たちは条件を満たさなければなりません。

聖書全体を見てみると、さばきは統治の機能であることがわかるでしょう。イスラエルの歴史の一時期、士師(さばきつかさ)は統治者でした。その後神は王を立てて、王がさばきつかさとなりました。私たちは、王政のもとでは最高裁判所はなかったということを理解しなければなりません。最高裁判所は王であり、王はさばきつかさでした。言い換えれば、治めることと裁くことは両立していて、分けることはできないのです。

そのことを理解するなら、どこでさばきが行われ、どこでさばきが行われないのかを理解することができます。治めるように要求された者は、さばくことも要求されます。家のかしらとして父親は神のために自分の家を治めなければなりません。父親は子どもたちのけんかを解決させます。家族がどのようなテレビ番組を見るのか見ないのかを決定します。どんな娯楽を楽し

むのかを決めます、読むべき本を選択します。父親は自分の家庭を治める責任があるので、家庭をさばく責任もあります。しかし、もし彼が兄弟の家をさばき始めたら、その父はもはやさばきつかさではなく、おせっかい者です。彼の兄弟の家庭をさばく責任は、その兄弟にあるからです。

もしある人が長老として教会での権威が与えられたなら、需要な働きの一つは治めることです。ですから、長老は主の会衆をさばかなければいけません。争いを仲裁し、正しいこと、ふさわしいことを決定し、会衆に神の民の一般的教えと原則を決めます。しかし、もし長老が別の教会の会衆をさばき始めたら、その人はもはやさばきつかさではなく、おせっかい者です。

あなたは神の民である私たちの多くがおせっかい者となってきたことが、大きな問題だと知っているでしょう。私たちの権威の下にない人たちをさばくことに忙しくしてきました。結果は、私たちがさばかれるべきである領域でさばき損なうのです。いつも近所の子どもたちの批判ばかりして、自分の子どものしつけという役目をあまりしていないことが多いのです。

私たちひとり一人に決められた権威の領域が与えられており、その領域の中で私たちはさばくのです。その領域の外では、私たちはさばく権利はありません。私たちのリーダーの指示によってともに集まる時、私たちはさばきと統治の場に来るということです。各グループのリーダーたちは他の部族ではなく、自分の部族の責任を負っています。

自己中心の態度

IIテモテ 3:1-5 を見てみましょう。

> *「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。」*

これは、終わりの日を特徴づける汚点、欠如の18項目です。神のことばは、問題のありかを特定しています。聖書が言っているように*「困難な時代がやって来る」*原因は何でしょうか。それは、危険の源である人間の性質の低下です。

その項目を見ると、人々の愛で始まり、愛についてで終わっています。*「自分を愛する者」*、*「金を愛する者」*、そして最後に、*「神よりも快楽を愛する者」*です。この人の性質を堕落させる有害な3つの愛は自分を愛する、金銭を愛する、快楽を愛する、です。

現在、私たちは、極端に自分を愛し、金銭を愛し、快楽を愛することに自分をゆだねるという文化を好みます。私たちの問題の源は、利己主義です。

*「見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。」*言い換えれば、そのような人々は、不信者ではなく、教会に集いながらも、自分のライフスタイルを変えてくださる神の権利を拒絶することによって、神の力を否定する人たちです。彼らは教会へ行き、宗教的で讃美歌を歌いますが、愛の対象は自分たちです。

神の治療法

詩篇 122 篇に戻ると、この自己中心と利己主義への神の治療法がわかります。「私の兄弟、私の友人のために、さあ、私は言おう。『おまえのうちに平和があるように。』私たちの神、主の家のために、私は、おまえの繁栄を求めよう」(7-8 節)。別のことばで言うと、人生には「私」より大切なものがあるということです。それは、神の民、神の家です。自分の快楽のために生き、自分にとって良いもの、自分の野心を追い求めようということなのか、それとも、私は神の栄光、神の家、神の民のために生きようということなのかです。私は、後者が真の幸福への道であるとお勧めします。

マタイ 3:10 でバプテスマのヨハネは言っています。*「斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。」*一致を求めるなら、私たちは利己主義の根を切り落とさなければなりません。

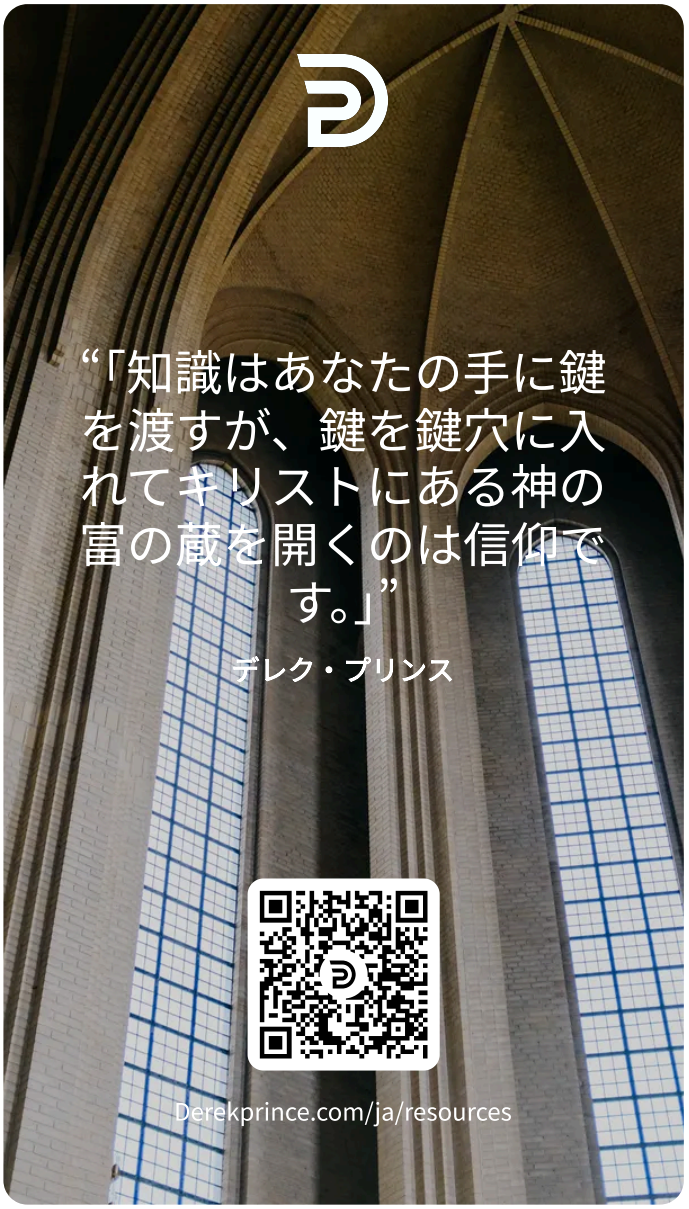
私は斧を取って利己主義の根を切る恵みを神が与え、神の民と神の家のビジョンを与えてくださるように祈ります。ハガイ 1:4で神は捕囚から帰ってきた者たちに言っています。*「この宮が廃墟となっているのに、あなたがただけが板張りの家に住むべき時であろうか。」*彼らの問題は何だったのでしょう。利己主義です。彼らは、神の家、神の民、神の栄光を考える前に、自分たちのこと、自分たちの興味と関心事を重んじていました。

もし、私たちが自分よりも他のもの愛するなら、私たちは社会を変えることができます。例えば、弱者の重荷を担うこと、助けが必要な人のために犠牲を払うことを喜びとするなら。キリスト教が誕生した時代のことわざです。「ユダヤ教徒は互いに愛し合い助け合う。しかしクリスチャンはクリスチャンでない人を助ける。」これは、異教の世界では驚くべきことなのであって、それこそ神が今日の私たちに求めておられることです。

神の家と神の栄光を、私たちの興味や関心事の上に置く無私の動機によってキリストのからだが一致して集まる時、この世は神が遣わされたお方であるイエスを本当に知り、信じるでしょう。

ティーチング・レター

原稿: TL-L068-100-JPN
最終更新日: 16 Oct 2026
ウェブサイト: Derekprince.com/ja/resources



© 2009 - □□□□